

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2020年 1月 8日作成

研究課題名	上肢の複合性局所疼痛症候群患者に対する作業療法による機能的帰結 －介入前後の機能・認知・ADLの変化－
研究の対象	2012年8月1日から2016年の8月31日までの間に横浜市立大学附属病院リハビリテーション科で作業療法を提供した上肢の複合性局所疼痛症候群患者のデータをカルテより後方視的に分析が可能な対象者10例
研究目的 ・方法	<p>当院では上肢 CRPS 患者を対象に痛みの教育を含んだ認知の是正と痛みの程度に応じた段階的曝露療法とコーピングスキルを用いた ADL, APDL 訓練の併用プログラムを行っている。実際に作業療法を実施した症例に対し、介入を通して何が改善し、改善しない点は何かを多面的評価を用いて観察を行い、調査するため本研究を行うこととした。</p> <p>作業療法開始時（2週間以内）と終了時（2週間以内）に行った痛みと身体機能の評価を比較することとした。痛みの評価には次の質問紙法に基づく評価尺度を用いることとした。メインアウトカムを CRPS の状態評価として診断基準項目が含まれる Reflex Sympathetic Dystrophy Score を一部改変し白井が点数化した数値的尺度（以下 CRPS スコア）とした。</p> <p>セカンドアウトカムは身体機能評価として上肢機能を Simple Test for Evaluating Hand Function（以下 STEF：（株）酒井医療）、患側上肢の握力（kgf）を JAMER 油圧式握力計（日本コメディクス社）、側副つまみ（kgf）をピンチメーター（（株）オージー技研）で測定したものとした。また痛みの多面的側面の評価とし、①痛みの強さや感覚など主観的な疼痛の評価として数値的尺度：Mcgill Pain Questionare（以下 MPQ）、②痛みの認知の評価には、破局的思考尺度：Pain Catastrophizing Scale（以下 PCS）、③身体的疾患を有する患者の抑うつと不安に関する精神的状況を計測する尺度：Hospital Anxiety and Depression Scale（以下 HADS）、④痛みによる身体活動制限の評価には、疼痛生活障害評価尺度：Pain Disability Assessment Scale（以下 PDAS）、⑥痛みによる上肢の QOL 評価には、HAND20 を用いることとした。</p>
研究期間	西暦 2019年 1月 4日 ～ 西暦 2020年 3月 31日

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

研究に用いる 試料・情報 の種類	研究に使用した情報：年齢、性別、介入期間、カルテ番号、介入した訓練内容等 CRPSの状態評価のCRPSスコアでは、CRPSの状態を機能動作障害（0：使用不可～5：なし）、関節可動域制限（0：制限が正常の2/3以上～5：なし）、疼痛（0：安静時痛あり～3：なし）、アロディニア（0：広範囲にあり～3：なし）、腫脹（0：明らかにあり～2：なし）、血管運動障害（0：明らかにあり～2：なし）、異栄養状態（0：明らかにあり～2：なし）の7つの項目からなり、総点は22点で点数が高いほどCRPSの状態が良好と判断する。
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学附属病院 リハビリテーション科 （研究責任者）中村 健 電話番号：045-787-2800（代表） FAX：045-787-2853</p>	